

1.地域の中の外国人

大学進学で宇都宮市に移り住んで初めて感じたことは、外国人が非常に多いということである。青森に住んでいたときは日常で外国人に出会うことは滅多になかった。しかし、宇都宮に住むようになってからは、スーパーで買い物をしているときや信号で待っている時など、日常的に多くの外国人に出会う。外国人に会わない日の方が少ないのではないかとさえ感じる。最も身近で、外国人を頻繁に目にする場は、私のアルバイト先のマンションである。タイ人、中国人が住み、お店にもしばしばやってくる。マンションに住む外国人と私の店のオーナーは一見、仲良く共生しているように見える。しかし、マンションのごみ置き場をめぐるトラブルになっている。そこで地域に住む外国人とごみという問題について、私のアルバイト先を事例として取り上げ、行政のごみ問題の対応に関して考察する。

2.マンションのごみ問題

まず始めに筆者のアルバイト先について簡単に紹介する。アルバイト先はあるマンションの1階に店を構える居酒屋である。3月から働きはじめたのだが、店を構えるマンションが少々変わった状況であることを最近知った。そのマンションは外国人住民が8割、9割住んでおり、そのほとんどが中国人、タイ人である。日本語の話せない人、もしくは片言の人がほとんどであり、約3か月で住民が変わるという特殊な状況である。この状況で店長が当初から困っていることとして挙げているのは、マンションに住む外国人のゴミ出しのマナーである。マンションの1階にはマンションの入り口、アルバイト先の店が一軒、住民と店の駐車場とごみ置き場がある。マンションのごみ置き場と店の駐車スペースは隣り合わせになっており、車を止めて出た場合、すぐ目の前にごみ置き場があるという非常に隣接した状況である。

したがって、お店側としても車で来るお客さんからの印象を良くするために、ごみ置き場の清潔感が重要となってくる。しかし、マンションのごみ置き場は常に粗大ごみや、種類ごとの収集日を守らなかったために取り残されたゴミが山積みである。「不法投棄禁止」と書かれているにも関わらず、粗大ごみには絨毯や炊飯器、マットレスや衣装ケースがあり、最近までテレビも置いてあった。次から次へとごみが捨てられていくため、縦にも横にも積まれており店の駐車スペースにもはみ出してきている。

店側としても黙ってはおけない問題となっている。この問題は店を開店した当時から生じている。開店当初は今よりももっと酷い状況であったと聞く。今は、分別されていないゴミが放置されているが臭いや害虫の発生は感じられない。しかし、以前はごみから発生する異臭が店の前にも立ち込め、害虫やねずみの被害もあったそうだ。現在は週に数回簡

単ではあるものの、ごみを整理してくれている人がおり、それらの問題も発生していない。

次にごみ置き場の状況について述べる。マンションのごみ置き場には丁寧に、「可燃物」「不燃物」「布類」「新聞」などの張り紙が張っており、それぞれの下には収集日も記入されている。自治体から家庭に支給される「ごみの出し方・分け方」も2枚貼ってある。しかし、外国人住民が多いという状況に対して、外国語表記が見られないことに気付いた。2枚のうち1枚の「ごみの分け方・出し方」には英語表記はある。表の中にある曜日やごみの種類、どのような袋に入れて出すのかという最低限のことは英語表記がされてあるが、細かい注意事項については表記がされていない。外国人住民がこれほど多いという状況で外国語表記が少ない点、またアジア系の住民が多いなかで状況に合わせた言語表記がない点が問題であると感じた。

3. マンションにおける外国人コミュニティとごみ問題

このようなごみ問題が発生した原因をマンションの住民から探る。今回は店長が不動産会社や周りの地域住民から聞いた話にもとづき考察する。

このマンションは全節でも述べたように8割、9割が外国人であり、そのほとんどがタイ人、中国人である。アジア系住民の集住が始まった時期は定かではないが、原因として挙げられるのは2つある。1つ目は前大家が外国人であったこと、管理会社が宇都宮になかったことである。大家が外国人ということで、マンションの受入も外国人が多くなったと推測できる。最近では大家も日本人に変わり、マンションの掃除をしたり、住民に挨拶したりするなど、こまめに住民の状況を把握しに来ている。管理会社も近くの店舗に変わったため、マンションの環境整備や管理に多くの人が携わるようになった。したがって、管理状況に関しては以前より改善している印象を受ける。

2つ目は住民に日本語が喋れない人が多いことと、入れ替わりが激しいことである。店長によるとマンションの住民の多くはタイ人の女性であり、彼女達は宇都宮駅東口に多くある風俗店で働いている。確かに店から東口の風俗街までは近く、店のお客さんにもしばしばその関係者が訪れる。マンション入り口からは、出勤前であろうきれいなドレスをまとった女性が数人集まり、風俗街方面へと向かっていくのをよく目にする。

また、タイ人の女性は非常に入れ替わりが激しいとも聞いた。観光ビザのような、特別な審査が必要ない在留資格を取得し、違法労働をして帰国という流れができていた可能性が高いとも言っていた。これらを考えると、タイ人女性の多くがほとんど日本語を話すことができないという点も理解できる。しかし、観光ビザ、つまり短期滞在で日本に来てても家を借りるということは法的にできない。この問題に関してはタイ人女性が働く店のオーナー名義、つまり、日本人名義で部屋を借り、そこにタイ人女性をまとめて住ませる寮のような形態をとっている可能性が高い。

以上のように、このマンションの中では外国人だけのコミュニティがすでに出来上がっ

ている可能性が高いことや、ごみトラブルに関して言葉が大きな壁になっていることが挙げられる。外国人が8割、9割、そして職業的にも同種でタイ人が固まって集住していることを考えると、マンションの中ではいわば、小さなタイ社会が出来上がっていると言えるのではないだろうか。日本ではあるが、彼らはタイのルールで生活していると考えられる。また、言葉の壁は非常に大きいことも感じた。店長は何度か直接注意しているそうだが、日本語が分からないため理解してもらえず、結局ごみ問題は解決されないと言っていた。以上を考えるとゴミ置き場の外国語表記の重要性はますます高まると考える。

最後に店長はインタビューの中で、「自分で注意もしたし、管理会社にもお願いしたが改善されない。たとえ注意をしてその場では聞いてもらったとしても、管理会社が注意をして外国人が分かりましたという返事を返したとしても、そこから先は個人のモラル意識であり、国民性ではないか。正直、注意をするのにも疲れたし、外国人住民はもうこりごりだ。」ということ述べていた。

ごみの問題は個人の意識の部分が多い。それに加え、同質性の高い外国人が集まったコミュニティの意識を日本に適応させてゆくのは非常に難しいと感じた。近所に外国人住民が何世帯かあるというなら、日本人としても歩みより、自治会の力で何とかしようという気持ちになるかもしれないが、マンション一棟全てが外国人で言葉も通じないとなると、行政の力やよほど大きな力がないと介入しづらい。この「コミュニティの強さにおける介入しづらさ」というものが管理会社や地域の日本人住民がゴミの問題を遠ざけ、いつまでも改善しない原因といえるのではないだろうか。

4.行政によるごみ問題への取り組み

外国人とのごみ問題に関する行政の取り組みの一つとして、宇都宮市はホームページにチラシ版「資源とごみの分け方・出し方」外国語版を6か国語で公開している。内訳として英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、タイ語、スペイン語に対応している。「資源とごみの分け方・出し方」に関してはネットだけではなく、宇都宮市役所のごみ減量課でも配布している。実際にごみ減量課における聞き取りの際には、窓口で簡単に貰うことができた。外国人にはどのような経路でごみ分別のチラシが渡るのか聞いてみると、主に不動産会社や、外国人に対して意識の高い町会長が窓口に来て、チラシを貰い、そこから渡されることが多いとのことであった。不動産会社に関しては外国語版のごみ分別表を配っている会社もあるが、ほとんどが日本語であるという回答だった。

また後日、宇都宮国際交流協会が主催するあるイベントに参加した際に、母語がポルトガル語の外国人女性に出会い、ごみ問題に関してのインタビューを行った。その女性はポルトガル語のごみ分別表を使用しており、町会長からももらったと言っていた。行政だけでなく、それよりもっと小さい自治会の関わりがごみ問題において重要であることが伺える。

さらに、宇都宮市が最近始めた取り組みに関しては、ごみ分別アプリ「さんあ〜る」が挙げられ、市役所や国際交流協会でもチラシやポスターで周知を行っていた。このアプリに関

しては次の節で詳しく述べる。

5. ごみ分別アプリケーション「さんあ〜る」

宇都宮市では2015年7月1日からごみ分別アプリケーションとして「さんあ〜る」を配信した。現在では宇都宮市と真岡市、那須塩原市が導入している。「さんあ〜る」は株式会社ディライトシステムが開発したものであり、2016年6月1日現在で導入済みの自治体は15あり、導入予定の自治体は10と自治体に普及しつつあるアプリケーションである¹。

宇都宮市ではごみ分別アプリケーションの導入に関して、「資源とごみの分け方・出し方を調べることができる冊子『資源とごみの分け方・出し方』配布や分別講習会等で周知徹底を図っているが、スマートフォンのアプリケーションを活用することにより、今後一層市民のサービス向上とごみ分別・リサイクルの更なる促進をめざす²としている。さらに「市内に在住する外国人や大学生などの若年層を含む多くの市民が、ごみの分け方・出し方や収集曜日などをいつでもどこでも簡単に取得することが可能にする³と述べている。

アプリケーションは「App Store」「Google Play」から無料でダウンロードでき、英語、韓国語、中国語（簡体字）にも対応している。利用状況に応じてポルトガル語やスペイン語、タイ語への対応も検討中である。居住地等の登録をすることでごみの検索機能、情報発信機能が利用可能になる。検索機能では「ごみの分別の仕方を検索できるほか、居住地のごみ収集曜日の検索」することができる。また、「収集曜日を通知にて知らせる機能や市から発信するごみなどに関するお知らせを掲示板で閲覧できる機能、ごみなどに関する詳細情報について市HPへリンクして取得できる機能」がある。「ごみ分別辞書」では約700品目が510音順で報じされるほか、品目名で検索できる機能がある⁴。

筆者も実際にダウンロードして試してみようとした。アプリケーションのホーム画面は一番上にごみ減量課からのお知らせがあり、中央に近日中のごみ収集の予定、下にはカレンダーの表示があり、どのごみをどの曜日に出せばよいの一目でわかる構造となっている。メニューには分別辞書のほか、クイズや問い合わせ先も表示してある。分別辞書に関して、例えば「アイスピック」を検索すると分別区分に「危険」と表示されるほか、注意事項で「先を紙等で包む」と書かれており、日本の複雑な分別にも外国人が対応できるような仕組みであることが分かった。

多言語表記対応とのことで試しに英語に変えてみようとしたが設定ページにはどこにも変換する場所がなかった。調べてみると、スマートフォンの言語設定に応じてアプリの言語も変換するとのことであった。筆者の経験上、多くのアプリケーションは自分で言語設定

¹ 「さんあ〜る HP」 <<http://delight-system.co.jp/3r.html>>（以下全て2016/6/19閲覧）

² ³ ⁴ 宇都宮市環境部ごみ減量課（2016）「ごみ分別アプリケーションの導入について」 <http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/dbps_data/_material/_localhost/sougouseisaku/kohokocho/kishakaiken_koho/2015/1506.02.pdf>

をしなければならないことが多い。宇都宮市が同じく発信する「宇都宮市観光」というアプリケーションも多言語対応であるが、自分で言語を変換しなければならない。さらに、外国語に設定すると、日本語のときと比べて得られる情報量が少なくなり、外国語対応が遅れているとの印象であった。それに比べると手間も省け、日本人、外国人の両者にとって使いやすいアプリケーションとなっている。

現在の若者の情報元はインターネットが中心であろう。日本に来たばかりで、人脈がない外国人や短期滞在の者、特に単身の外国人の若者は、ごみの分別法や収集日に関して聞きたいことがあってもまずどこに行き聞けばよいかわからないという問題が生じるであろう。そこでどこに尋ねるべきかスマートフォンで検索して、調べることが想定できる。インターネット上にごみに関する情報があること、簡単に使用できるアプリケーションがあることは若者の外国人にとって安心感があると考えられる。また、アプリケーションが口コミで広がっていけば、周知にも繋がると考える。

6.他市町におけるごみ分別表

宇都宮市のごみ分別表は6か国語対応となっており、市役所やホームページで簡単に見ることができた。さらにはごみ分別専用のアプリケーションも導入されている。宇都宮市を中心に見てきたが、この節では栃木県内で外国人住民が多い宇都宮市以外の市町村が発行するごみ分別表を比較、分析することで宇都宮市のごみ分別表に関する問題点を探る。

栃木県内で外国人住民が多い上位5市町は宇都宮市、小山市、足利市、真岡市、栃木市である。上位5市で栃木県内全体に存在する外国人住民の69%を占めている。市町人口に占める外国人の割合が高い上位5市は真岡市、小山市、足利市、栃木市、佐野市となっている。⁵今回は、外国人住民が多く、市町人口に占める割合も高い上位3市、真岡市、小山市、足利市を取り上げる。

ごみの出し方について外国語の情報提供もしている市町村は調べた限りで12市町あった。どの市町も英語と中国語表記があることが共通点として挙げられる。異なる点としては、外国人住民の国籍に応じてその市で対応している言語が異なることである。特に小山市はタガログ語、野木町はペルシア語に対応しており、他の11市町にはない特徴である。宇都宮市に関しては、5言語対応（英・中・葡・韓・タイ）となっている。

今回取り上げる真岡市は4言語（英・中・葡・西）対応であり、ごみ分別表に関しては、外国語表記のものはインターネット上にはなかった。しかし、宇都宮市でも導入されている、外国語対応のごみ分別アプリケーションが導入されている。また、分別表ではなく、ごみ収集日程表というものが公開されており、日本語、ポルトガル語、スペイン語で掲載されていた。ゴミ収集日程表はごみ分別に関しては知ることはできないが、何日にどのごみを出すべ

⁵ 栃木県国際課（2016）「平成27年度末栃木県外国人住民数現況調査結果概要」
<http://www.pref.tochigi.lg.jp/f04/documents/h27_jumin-gaiyou.pdf>
（以下すべて2016/6/5閲覧）

きか一覧で見ることができる⁶。

小山市は7言語と最も多いが（英・中・葡・西・韓・タガログ・タイ）、真岡市と同様、外国語表記のごみ分別表はインターネット上に掲載されていなかった。

足利市は4言語（英・中・葡・西）対応である⁷。ごみ分別表に関しては外国語版が公開されていたが、真岡市のような分別日程表のようなものはなかった。ごみ分別表がダウンロードできるサイトにもそれぞれのごみを出す曜日や日にちは掲載されていないことが注意書きとして書かれており、各々で調べる手順が記載されているのみだった⁸。

宇都宮市のごみ分別表は対応している外国語版のすべてをインターネット上でダウンロードできる。しかし、他の市はインターネット上に掲載していなかった。この点、外国人住民がゴミに関しての情報にアクセスしやすいこと、また外国人住民がわざわざ市役所に行かなくても分別表を手に入れることができるという点で便利だと感じた。しかし、真岡市にあったごみ分別日程表、またはカレンダーのようなものはない。

前節で述べたアプリケーション「さんあ〜る」ではカレンダー形式でごみの種類に合わせた収集日を確認することができた。これらも一緒に掲載し、実際に配布すれば一覧でどのごみをいつ出すべきなのか知ることができる。万国共通のカレンダーという形式を用いることで、日本語を使用せずに済み、言語を通してではなく、視覚で直接的に理解できるため、外国人住民にとって使いやすいものとなるのではないだろうか。また、自治会にほとんど参加しない外国人住民、または、外国語という壁で外国人住民と付き合うことに困難を感じる日本人がいる場合、ごみ分別に関して日本語または外国語で説明する必要性は少なくなる。したがってこのカレンダーは有効な案だと考える。

現在のインターネット、スマートフォンの普及率から、インターネット上の情報を充実させることも重要であるが、紙媒体としてのごみ分別表も蔑ろにしてはならないと考える。なぜなら、個人差もあるだろうが、年齢層によって電子機器を扱える能力に差があるからだ。外国人利用者に合わせて紙媒体のごみ分別表の見直し、適度に行っていく必要があると考える。

7. やさしい日本語について

前節でも述べたように宇都宮市はごみ分別表の多言語化を熱心に行っていた。最近では数十か国存在する外国人住民の割合に合わせた言語表記の充実だけでなく、どの国の住民にも適応できる言語として、やさしい日本語の推進も行っている。

⁶ 真岡市 HP 「年間ゴミカレンダー（ごみ収集日程表）」
<<http://www.city.moka.tochigi.jp/7,4401,19,142.html>>

⁷ 栃木県国際交流協会 HP 「外国語による情報提供の状況」
<<http://tia21.or.jp/life/18.html>>

⁸ 足利市 HP 「外国語版「ごみの分け方・出し方」 Foreign language version “How to put out garbage in Ashikaga City ”」（2016/6/5 閲覧）
<<http://www.city.ashikaga.tochigi.jp/page/foreign-language-garbage.html>>

やさしい日本語とは「普通の日本語よりも簡単で、外国人にもわかりやすい日本語」のことである。阪神淡路大震災時に外国人も被害を受けるなかで、日本語も英語も話すことができない人が必要情報を受け取ることができなかつたことを反省し作られたものである⁹。宇都宮市の栃木県国際交流協会は、災害時に備えてこの言語を普及させるだけでなく、日常生活においても使えるものとしてこの言語の普及を目指し、「やさしい日本語をはなしてみよう！」というパンフレットを発行している。このパンフレットは日常生活や公共の場などで話される会話をやさしい日本語で紹介し、必要最低限の日本語ができる外国人を想定して会話を紹介するものである。ごみ出しに関する会話紹介では、アドバイスとして、『『ごみ置き場』や『ごみステーション』は、わかりにくい言葉なので、実際に場所を言うようにしましょう』や「ごみの種類は説明してもわからないことが多いので、市や町で出している絵がついた説明書を見せながら、ゆっくり、区切って、話すようにしましょう」¹⁰などと表記されている。

「ごみ置き場」という言葉でも外国人にとっては難しく感じるということは意外であった。外国語が話せない日本人と、日本語が流ちょうに話せない外国人という関係性であれば「やさしい日本語」もお互いのコミュニケーションの一つとして有効な手段であると考えられる。しかし、実際に外国人住民にごみ置き場の場所やごみ分別を教えてあげる日本人がいなければ、外国人が分別していないゴミを放置したり、収集日と異なった日にゴミを出したりするなどのごみ問題は解消されないと考える。したがって、外国人住民と自治会の関係性や近隣住民とのかかわりが重要になると考える。

8. ゴミ袋指定に関して

宇都宮市は燃えるゴミに関して、透明または白色のごみ袋であれば良いが、栃木県内でゴミ袋を指定している地域もある。ゴミ袋の指定に関して外国人への配慮はあるのか調べた。栃木県内でゴミ袋を指定している地域に真岡市、栃木市、が挙げられる。真岡市に関しては平成26年度4月からごみの分別方法が変わり、燃えるごみの有料化が始まった。ごみ分別表に関して、真岡市は外国語表記の物はネット上に記載していなかったが、ごみに関する新しい制度に関しては英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語の4言語で公表して



図1 真岡市におけるごみ袋の例

⁹ 減災のための「やさしい日本語」 <<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ1a.htm>> (2016/7/10 閲覧)

¹⁰ 栃木県国際交流協会「やさしい日本語で話してみよう！」
<http://tia21.or.jp/parts/files/yasashi-nihongo.pdf#search=%27%E6%A0%83%E6%9C%A8%E7%9C%8C+%E5%84%AA%E3%81%97%E3%81%84%E6%97%A5%E6%9C%AC%E8%AA%9E%27> (2016/7/10 閲覧)

いた¹¹。いつから制度が始まるのか、どこでゴミ袋が購入できるのか丁寧に記載されていた。また、ゴミ袋本体にも5言語で「燃えるゴミ」の表記がある。

栃木市に関しては、分別表の外国語表記はネット上に記載されていなかったが、ゴミ袋には「burnable」の英語表記がしてあり外国人に配慮したものだと言える。

9. 外国人、日本人、行政の連携をめざして

外国人と日常的に接する中で問題となるゴミ問題について、実際に私のアルバイト先の例から行政の行う取り組みまで見てきた。外国人住民の多い宇都宮市はこの問題に対して実に様々な取り組みを行っていると感じる。インターネット上の情報の充実やアプリケーションの開発、外国人住民の国籍に関係しない、共通語としてのやさしい日本語の推進など、取り組みも多岐にわたる。

しかし、これらが市民に浸透しているかといえば疑問が残る。市役所で聞き取りをした際も、ゴミに関する対応は管理会社や自治会に委託しきっている印象を受けた。ゆえに、ゴミに関する支援の拡大を行っても地域住民まで行き届いていない可能性がある。ゴミ問題は確かに、外国人住民のマナーやモラルに関連する問題でもあるが、行政や自治会の責任、日本人側の責任でもあると考える。情報を手に入れられなかったという状況でも、ゴミを捨てているのは外国人住民であるから、彼らの問題として認識されがちである。ゴミ問題に関する取り組みをいくら行っても、それを伝える日本人側の努力がなければ解決に繋がらないのではないのではないだろうか。

日本人は言葉の壁があり、外国人とコミュニケーションを取ることにためらいがある。店長のインタビューでも言葉が互いのコミュニケーションの障害となってしまう、対話の諦めへと至ったことが分かる。外国人住民を直接的にサポートすることも大切であるが、日常的に接する、日本人のサポートも重要であると感じる。行政は行政で様々な取り組みを行っているが、日本人が外国人住民に歩み寄る努力を促し、続けるための支援の流れを作る必要があると考える。

今回の調査で自治会へのインタビューを予定していたが、アポイントまでつなげることができなかった。現場に一番近い自治会がゴミ問題に対してどんな取り組みをしているのか、日本人と外国人住民との関係性づくりをどのようにしているのか、行政と自治会の連携に関して詳しく調査できなかった点が心残りであり、今後の調査課題でもある。日常的に接するゴミ問題において、双方が気持ちよく生活していけるように、お互いの歩み寄りや助け合い、それを促す行政の取り組み、この三者間が上手く繋がることができれば、解決策が見えてくるのではないかと感じた。

¹¹真岡市 HP(2013)「平成26年4月1日から、もえるごみの有料化と新分別がはじまります」
<<https://www.city.moka.tochigi.jp/news/detail.7.13815.html>>
(2016/6/12 閲覧)